

災害対策本部および災害調査対応本部の設置訓練を行いました（2019/12/4）

テーマ：災害対策本部、災害調査対応本部、防災・業務継続計画（BCP）、大学間協力
場所：災害科学国際研究所（仙台市青葉区）

12月4日（水）午後、東北大学災害科学国際研究所において、2019年台風19号並みの台風豪雨で被害が出ている中で、仙台市内を南北に走る長町一利府線断層帯を震源とする地震（M6.5）が発生するという複合災害を想定した、災害対策本部設置及び災害調査対応本部設置訓練を行いました。両本部の設置訓練は、2015年、2017年、2018年に続き4回目となります。

災害対策本部（本部長：今村文彦研究所長）及び災害調査対応本部（同）は、当研究所の「防災・業務継続計画（BCP）」に基づき設置されるもので、本訓練は、当研究所の消防・防災委員会（委員長：丸谷浩明教授、人間・社会対応研究部門）を中心に教員と事務局が連携して企画・準備を行いました。訓練の目的は、BCPの習熟と内容改善、当研究所の役割である災害調査の対応力向上です。

さらに、近くに立地する宮城教育大学の防災教育未来づくり総合研究センターと当研究所が2018年3月に締結した相互連携に関する協定に基づき、防災訓練での2回目の連携も行いました。

当日は、台風の豪雨が続く中、13時に仙台市内を震源とする最大震度6強の地震が発生したとの想定で開始され、自衛消防隊が出動し、火災の発生がない前提で、所員の在室での安否確認訓練を行いました。その後、災害対策本部の設置が宣言され、当研究所の教職員約30名が参集し、段階的な状況付与を受けつつ災害対策本部の活動及び議論の訓練を行いました。主な被害想定は、次のとおりです。

- ・天井からの落下物に当たって意識不明のけが人が発生
- ・当研究所がある青葉山キャンパスへのアクセス道に土砂崩れ等が発生し、3ルート通行不能
残る八木山方面のルートも橋に段差ができ、自動車が徐行通行のみ可能
- ・停電（当研究所は非常用発電機を作動）、電話・携帯電話は輻輳、断水
- ・地下鉄、鉄道は運行停止、路線バスも青葉山は運行せず
- ・宮城県内に豪雨と地震の複合災害で、土砂崩れや河川氾濫が発生

災害対策本部会議では、所内の重大被害の集約と大学本部への報告、後述の宮城教育大学との協力のための通信、学生・教職員の帰宅をどうするか模擬討論などを行いました。

宮城教育大学との連携では、当研究所で発生した意識不明のけが人を江川新一教授（災害医学研究部門）がトリアージし、消防のヘリでの病院搬送を待つ間、宮城教育大学の保健管理センターにて応急措置を実施したい旨を無線で連絡し、受け入れ了解後に公用車で搬送しました。その後、同大学のグラウンドにヘリが到着する想定での移動訓練も行いました。一方、宮城教育大学からは、建物の応急危険度判定を行える教職員が不在のため当研究所から資格者の派遣を要請され、佐藤健教授（情報管理・社会連携部門）を派遣する訓練を行い、当研究所の衛星携帯電話を宮城教育大学が使用する方法の確認も行いました。

次に、当研究所の使命である災害の調査分析を推進するため、災害対策本部に続いて災害調査対応本部の会合を開催しました。同本部は、地震・地殻変動班、津波調査班、地震被害調査班、地すべり・地盤災害班、情報分析班、民間部門調査班等により構成され、順次、想定した災害に関する情報の分析、被害予想などを報告し合い、今後の調査方針や留意事項などを議論しました。また、この場に宮城教育大学から小田隆史准教授を研究協力のリエゾン（災害対策現地情報連絡員）として迎え、議論に加わっていただきました。

最後に、訓練の振り返りを行い、今後の改善点を整理して訓練を終了しました。



けが人への対応の様子



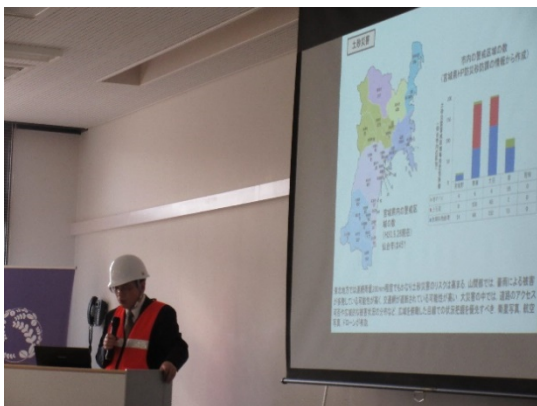
災害対策本部会議



災害調査対応本部会議



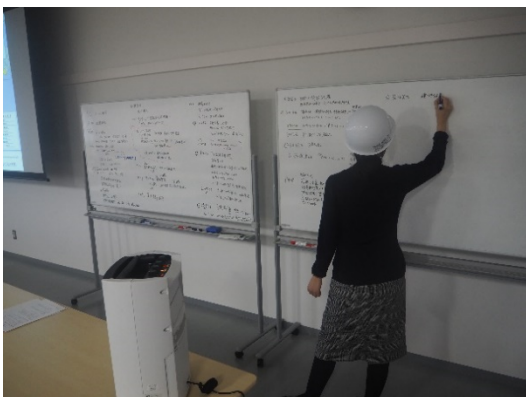
宮教大も加わった災害対策本部会議



調査資料の発表



安否確認訓練の様子



訓練中の記録



公用車でのけが人搬送